



## 第19回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 新潟県新潟市



# Agenda

#01

クラダシチャレンジとは

#02

5日間のスケジュール

#03

活動報告

#04

参加者の声

#05

事後報告会

#06

総括

# #1. クラダシチャレンジとは

## #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

### 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

地方創生やフードロス問題に興味がある学生が、人手不足に悩む地域・農家を訪れ、作業支援や交流を通して、地域課題やフードロスなどの社会課題について考える、社会貢献型インターンシップです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

### クラダシチャレンジ実施の目的

活動中：未収穫品から新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後：学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために  
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・  
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

## クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために  
創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット  
「Kuradashi」上における寄付先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教  
育事業、食のサステナビリティ研究会の社  
会貢献活動に活用しています。

### ▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 「クラダシチャレンジ」の目的

## ①未収穫作物の収穫による新たな収益の獲得

地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足が問題となっています。地方では、農業人口の高齢化・労働者人口の不足によって、未収穫作物の発生が増加しています。

新潟市で生産されている様々な果樹の収穫は、手作業で行われるため、時間と人手が必要です。収穫作業の必要な時期に学生を派遣することで、**未収穫による一次製品の食品ロスが解決される**と同時に、クラチャレ定期便により、農家さんの新たな収益を獲得することができます。

## ②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前前の風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇り**を持つことができます。

そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます**。

## ③地元の特産品の購買促進に

新潟市には、お米の他にも、ブドウや梨などの特産品に加え、萬代橋など様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通して PRすることで、**購買促進・観光客の増加**を図ることができます。



## 第19回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 新潟県新潟市

---

- 活動内容:①米作り関係(稲刈り、精米、梱包)
  - ②葡萄の選別・包装・販売
  - ③新潟県、新潟市職員の方との意見交換
  - ④SNS等を利用した地方の魅力発信
  - ⑤ソーシャルグットマーケット「Kuradashi」でのコシヒカリの販売
- 開催期間:2022年9月26日～9月30日
- 参加人数:4人
- 実施企業:株式会社クラダシ(クラダシ基金にて運営)



# #1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 新潟県新潟市クラダシチャレンジの概要

## 【新潟市とは】



新潟市は古くから「みなとまち」として栄え、平成 19年4月には本州日本海側初の政令指定都市となりました。

広大な越後平野は、米のほか、野菜、果物、畜産物、花き類など、農畜産物の一大産地です。また、日本海側に面し、信濃川・阿賀野川の両大河、福島潟、鳥屋野潟、ラムサール条約登録湿地である佐潟といった多くの水辺空間と里山などの自然に恵まれています。  
(新潟市HPより)

#クラダシチャレンジ in 新潟県新潟市



2022年3月に株式会社クラダシは、新潟県、新潟市それぞれと食品ロス削減に向けた連携協定を締結いたしました。

新潟全域でのフードロス削減や食育、SDGs教育の推進、地域が抱える様々な社会課題の解決に取り組んでまいります。

▼連携協定について詳しくはこちら

<https://corp.kuradashi.jp/news/22-03-31-2/>

**Kuradashi**



## #2. 5日間のスケジュール

# 5日間のスケジュール①(Day1-3)

## <Day 1>

- 9:30 東京駅出発
- 11:30 新潟駅到着
- 13:30 ゲストハウス到着
- 14:00 白根グレープガーデンにて作業
- 17:00 作業終了
- 18:00 夕食
- 21:00 活動の振り返り・自由時間

## <Day 2>

- 7:00 朝食
- 8:00 移動
- 8:30 白根グレープガーデンで作業  
(ぶどうの選果)
- 12:00 昼食
- 13:00 作業(イチゴのランナー取り)
- 17:00 作業終了
- 18:30 夕食
- 21:00 活動の振り返り・自由時間

## <Day 3>

- 7:00 朝食
- 8:00 移動
- 8:30 白根グレープガーデンで作業  
(ぶどう狩り体験の手伝い)
- 12:30 作業終了
- 13:30 昼食
- 14:00 新潟県庁にて意見交換会
- 19:30 夕食
- 21:00 活動の振り返り・自由時間



# 7日間のスケジュール② (Day4-5)

## <Day 4>

- 7:00 朝食
- 8:00 移動
- 8:30 戸頭農場にて作業  
(農場案内& サツマイモ掘り)
- 12:00 昼食
- 13:00 作業(検査見学& 稲刈り)
- 18:30 懇親会
- 22:00 活動の振り返り・自由時間

## <Day 5>

- 7:00 朝食
- 8:00 移動
- 8:30 戸頭農場にて作業  
(クラチャレ定期便発送作業)
- 13:00 帰りの準備
- 14:00 昼食、観光
- 18:00 新潟駅出発
- 20:00 東京駅到着



# #3. 活動報告

## ▶白根グレープガーデン

白根グレープガーデンでは、主にぶどうの選別作業といちごのランナー取りを行いました。ぶどうの選別作業は、収穫前に落ちてしまったぶどうを、“個別販売用”、“加工用”、“肥料”の3つに分ける作業です。選別するぶどうの量が多く、地味で時間のかかる作業だと感じました。一方で、いちごのランナー取りは、ランナーと呼ばれるいちごのつるを摘み取る作業です。農家の方々は、いちごを植えてから収穫までの数ヶ月の間で毎月行うため、苦勞がうかがえました。

農園の方々は熱心に話をしてくださり、果樹栽培や観光農園に対して理解が深まりました。果樹栽培は、自動化できない部分が多いので、手間暇がかかります。白根グレープガーデンでは、通常捨ててしまう部分を別の形で販売・活用する工夫が見られました。



## ▶戸頭農場

戸頭農場では、主にさつまいもの収穫と米の精米・出荷作業を行いました。さつまいもの収穫では、土地柄畑の土が重く非常に重労働でしたが、さつまいもを傷つけないように掘り進めていきました。米の収穫作業では、コンバインに乗せていただき収穫を体験しました。コンバインは進みながら脱穀を行う機械で、まっすぐに運転するのが難しかったです。また、米の精米・出荷作業では米袋を精米機に移し、袋詰をした上でシールを貼って商品として完成させました。

戸頭農園では、農薬を控えた作物栽培を目指しています。農場の隣にある工房では、おこわや餅などの加工品を作っていました。実際におこわを頂き、これまでにない弾力感に感動を覚える味でした。また、街路樹の落ち葉や近くの酪農農家の糞を肥料にして活用する取り組みも行われていました。



## ▶意見交換会

意見交換会では、新潟県庁で新潟県・新潟市の方にお話を伺いました。ターン・Uターン、農業、食品ロスなどのトピックについて、担当されている部署の職員の方から直接現状について説明していただきました。私たち学生も自分たちの経験や意見を求められるなど、活発な意見交換が行われました。お米の消費や地域の特産であるル・レクチェを広めるためのキャンペーンやプロジェクト、また食品ロス解決のために業界を超えた働きかけなど、自治体の取り組みについて具体的に知ることができた貴重な機会でした。お話を通して、この地域課題を何とかしたいという自治体の方々の熱意を感じることが出来ました。その他にも、展望台から新潟市街を一望したり県庁の食堂で新潟名物をいただくなど、新潟を深く知ることが出来た一日でした。



## ▶クラチャレ定期便での販売

戸頭農場で、クラチャレ定期使用のお米の精米や袋詰めを行いました。精米機にお米を入れると自動的に精米してくれるので、それを袋に詰める作業をしました。数多くあるお米農家の中でどう差別化をするというか、違いを出していくのが難しいとおっしゃっていました。その中で戸頭農場のお米は、パッケージのデザインに凝ったり、従業員の1人が書いた短いコラムを入れるなど、購入者にとって親しみやすい印象を受けました。





## #4. 参加者の声

## #4.参加者の声①

### 農家の方々との関わりを通じて

クラダシチャレンジを通じて学んだことは、大きく 2つあります。

1つ目は、“作り手の気持ち”に対する魅力です。スーパーに並ぶ食品のその裏にある、作る人の思いや苦労を意識するようになりました。その結果、食べ物を残さないことをより意識するようになった上、感謝して食べるようになったと思います。都会にいても、消費者の皆が作る人の気持ちを意識して消費していけたら、現状のフードロス問題は変わると思いました。

2つ目は“新しいことに挑戦し続けること”の大切さです。白根グレープガーデンでは、収穫前に落ちてしまったぶどうを加工品として販売して、新たな観光資源にしていました。一方で戸頭農場では、地元の落ち葉を肥料に加工して利用してみたり、さつまいもの収穫体験をイベントとして企画していたりしました。農家の方々も時代に合わせて様々な取り組みを行っていることを知り、とても興味深かったです。若者の農業離れが進んでいるなかで農業の創意工夫の可能性の幅広さはひとつの魅力になると感じ、私自身も “新しいことに挑戦する”という視点を持ち続けて仕事をしていきたいと思いました。

クラダシチャレンジを通じて多くの発見をすることができてとても感謝しています。農家や役所の方々と関わり、じっくりと話を聞いて事後課題に向けて深めることのできる、クラダシチャレンジだからこそできた体験だと考えています。



【立教大学4年 沼澤由芽】



### クラチャレでの学び

今回果樹とお米という2つの作業ができたため、両者を比較することができとても勉強になりました。

例えば、お米は機械化が進み、私たちが伺った時期はほとんどが機械での作業だった一方、果樹園では私たちが行った収穫や選果などの作業は人間の目で見て手作業でしかできないものでした。どちらが良いとは一概には言えませんが、果樹（特にぶどう）は機械化が難しいと聞き、できるところは機械に任せ、難しいところにリソースを割くべきだと思いました。

またクラチャレの醍醐味である、現地の様々な人と知り合えるということを今回も経験し、いろいろな人と色々な話をする中で、自分の中に新しい考え方や視点が芽生えるきっかけになりました。これから社会人になる私たちにとって、すでに社会人の先輩の話はどれも参考になるものばかりです。クラチャレは、地方創生やフードロスに関して学ぶものでもありますが、同時に普通に生活していると出会えない現地のいろいろな方との出会いも魅力の一つです。今回の縁を今後も大切にしていきたいと思います。



【立教大学4年 川原紀春】



### 様々な「想い」

今回クラチャレに参加して、様々な「想い」に触れることが出来ました。白根ガーデン笠原さんの「想い」は、「とにかく地域とともに発展する」、「地元あつての地元企業、相互扶助の精神でいる」ことでした。また、戸頭農場の廣木さんの「想い」は、「自分が愛情をもって育てた作物を、知ってもらいたい」ということ。またクラダシ社員荒やんの「想い」は、「より多くの人に影響や感動を与えたい」。新潟市役所中澤さんの「想い」は、「新潟をもっと盛り上げたい」など様々な人の想いがありました。

また私がクラチャレに期待していた「想い」は、「行動を起こすチャンスを探していた」ことです。就活が終わり、自分自身のやりたいことについて正面から向き合いたく今回参加しました。実際に様々な「想い」を持った人々との遭遇に、とても心が動かされました。私自身も社会人になるため、「想い」を大切に情熱を持って働きたいと思います。



【青山学院大学4年 久留島翔太】



### クラチャレでの気づき

フードロスや農業を身近に感じたいと思い参加した今回のクラチャレでしたが、期待通りの成果を得ることが出来たと感じています。農家さんや自治体の方々の話で特に印象に残ったのは、自分も含め消費者の意識がフードロスや農業の課題解決のカギを握っているということ。私も無意識のうちに常により新鮮なもの・より安いものを追い求めていたように感じ、はっとさせられました。新鮮さ・安さは魅力的ではありますが、自身のその追求は過度になっていないか、一度立ち止まって考えるきっかけを得ることができました。今回のクラチャレでは、農作業の現場に自分たちが入ることで、中からその実情を体感することができたことに加え、反対に様々な関係者の方とお会いしお話を聞いたことで、異なる視点で広い視野を持って実情を見ることもできました。このような貴重な体験が短い期間の中で経験できることも、観光でも農業体験でもなく、クラチャレに参加する魅力であると感じました。



【名古屋大学4年 林航太郎】



事後報告

## #5. 事後報告会

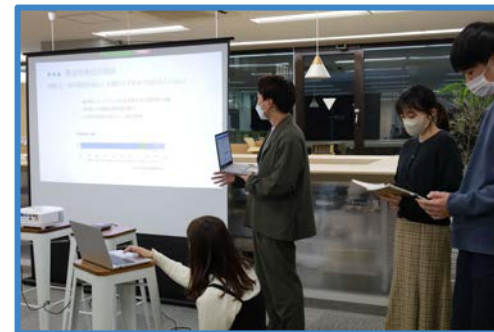
**第20回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 京都府京丹波町と合同で、参加者による事後報告会を行いました。**

■日時：2022年11月8日 17:00-19:00

■場所：クラダシオフィス・オンライン配信

■参加者：「クラダシチャレンジ in 新潟県新潟市」参加学生  
「クラダシチャレンジ in 京都府京丹波町」参加学生  
新潟県/新潟市の方々（県庁/市役所/区役所/農家）  
京丹波町関係者の方々（町役場/農家）  
積水ハウスの方  
クラダシ社員

■目的：参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する



03

# 政策立案



# ▶▶▶ 新潟市南区の現状

## 課題①: 街の活気の減少

各区の人口と世帯数 (平成26年3月末住民基本台帳)

単位: 人・世帯

	南区	全市	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	西区	西蒲区
人口	46,564	803,336	76,850	138,888	175,909	69,313	78,189	157,333	60,290
男	22,654	386,654	37,484	67,083	83,480	33,610	37,438	75,727	29,178
女	23,910	416,682	39,366	71,805	92,429	35,703	40,751	81,606	31,112
世帯数	15,176	324,633	27,784	58,795	83,653	25,649	28,455	65,323	19,798

平成27年以降では、8区中2番目に大きな減少が見込まれ、  
65歳以上の人口割合については、20年後に8区中最も高い伸び率が見込まれる。

(H22年国勢調査を基準とした区別将来推計人口による)

## ▶▶▶ 新潟市南区の現状

宿泊したゲストハウスぐーぐーがある白根商店街は  
シャッターの閉まっているお店も目立った

高齢化により、畑を手放す人の増加

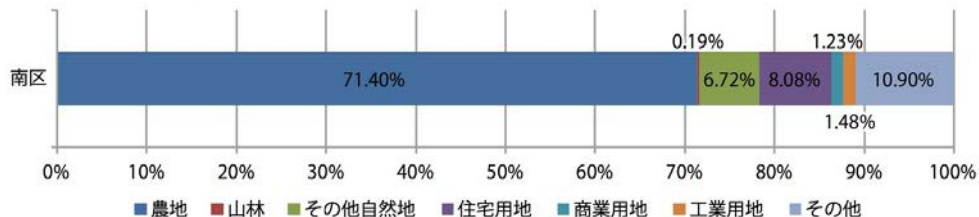


## ▶▶▶ 新潟市南区の現状

### 課題②: 果樹栽培が盛んにも関わらずあまり知られていない

- 新潟県でトップクラスの生産量を誇る農産物の宝庫
- 四季折々の新鮮な農産物が販売
- 土地利用現況を見ても、70%は農地

土地利用現況（南区）



資料：新潟市都市計画基礎調査（H21）

## ▶▶▶ 新潟市南区の現状

課題②: 果樹栽培が盛んにも関わらずあまり知られていない

大凧が舞い、獅子が跳ね、ルレクチェが実るまち 南区



▶▶▶ ルレクチェについて

ここでクイズです！

ルレクチェはどれでしょう？

①



②



③



▶▶▶ ルレクチェについて

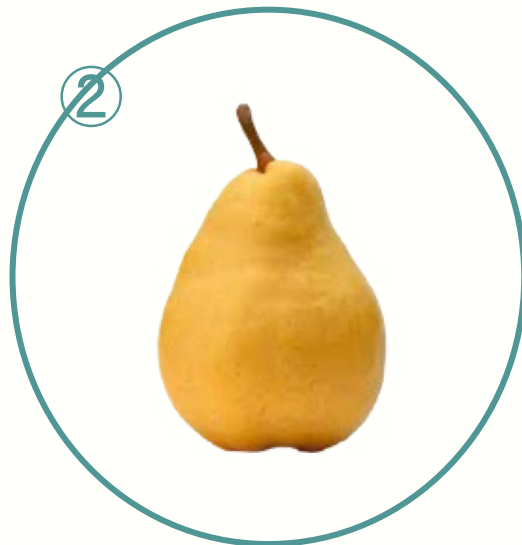
ここでクイズです！

ルレクチェはどれでしょう？

①



②



③

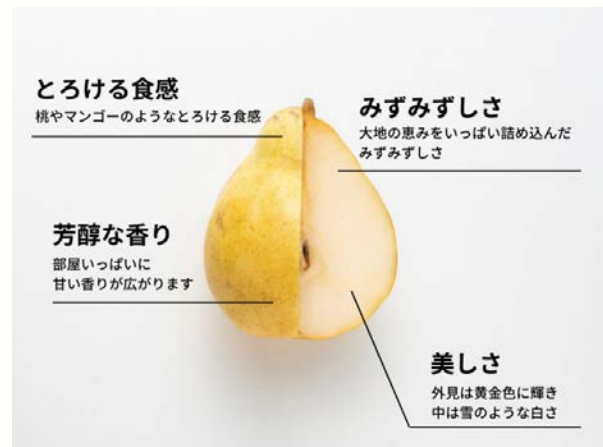


## ▶▶▶ ルレクチェとは？

西洋なしの一種。

甘く、芳醇な香り、また果肉は緻密で滑らか、糖度16%以上と高く、多汁なのが特徴。

味わえるのは冬の約1ヶ月間のみのため、「幻の西洋なし」「西洋なしの貴婦人」とも呼ばれる。



## 実は、南区はルレクチェの発祥の地。

ルレクチェ生産量の8割を占めるのが新潟県。

その中でも南区は全体の5割を占める！



## ▶▶▶ ルレクチェについて

ルレクチェの知名度調査  
メンバー各々が、SNSで調査

ルレクチェを知っていた人は212人中35人  
→2割弱の人しかそもそも知らない





## ▶▶▶ 課題解決策

ルレクチェの知名度を高めファンを増やすことで、  
南区をもっと盛り上げたい！





## 課題解決策

「ルレクチェのファンになってもらう」



ルレクチェを食べてもらう



ルレクチェを知ってもらう



## ▶▶▶ 課題解決策

ルレクチェを知ってもらうためには

本来は、本物のルレクチェを食べてもらいたい。



ルレクチェは、高価で希少



# 提案

## 「市販のお菓子とのコラボ」





## 課題解決策

「多くの人気が気軽に購入できる商品」



接触機会がある

低価格である

話題性がある

+

コラボ実績がある



## ▶▶▶ 課題解決策

市販のお菓子とは？

# 雪見だいふくとのコラボ



## ▶▶▶ 課題解決策

### 雪見だいふく

- 価格が200円程度
- コンビニ等で広く販売
- 40年のロングセラー
- Twitterのフォロワー数27万人という注目度の高さ
- 定期的に新作を発表
- 地域の特産品・果物とのコラボ実績(ex:愛媛みかん)
- ルクチェの季節と同じ、冬イメージのお菓子





## 課題解決策

「多くの人々が気軽に購入できる商品」



接触機会がある

低価格である

話題性がある



コラボ実績がある





## ▶▶▶ 課題解決策

### 雪見だいふく

- 価格が200円程度      低価格
- コンビニ等で広く販売      接触機会
- 40年のロングセラー      話題性
- Twitterのフォロワー数27万人という注目度の高さ      話題性
- 定期的に新作を発表      話題性
- 地域の特産品・果物とのコラボ実績(ex:愛媛みかん)
- ルクチェの季節と同じ、冬イメージのお菓子



## ▶▶▶ 課題解決策

”雪見だいふく×新潟ル・レクチュエ”

- 販売地域: 都内のコンビニ
- 販売方法: 雪見だいふくの期間限定商品として販売。
- 販売価格: 200円前後を想定
- 販売時期: 11,12月ごろ



## ▶▶▶ 課題解決策

### キャンペーンの実施

- 目的: ルレクチェに興味を持ってもらったお客さんに実際に果実を食べてもらえるように誘導。
- 実施方法: 雪見だいふくのパッケージ内に記載のあるQRコードを読み込むと、ルレクチェを提供しているカフェの割引券がラン



ダムで当たる





## 課題解決策



### ルレクチェ農家

ルレクチェを認知してもらうきっかけが増え、収入増加が期待できる



### 消費者

ルレクチェという新たな味の楽しみとの出会い



### メーカー

地域活性化施策として行うことで、企業イメージの向上になる



新潟クラチャレ関係者の皆様、ありがとうございました！



# #6. 総括

社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、新潟県/新潟市以外の自治体でも支援を引き続き行なっております。  
ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。